

## 平成 20 年度富山県環境審議会水環境専門部会 議事概要

### 1 日時

平成 21 年 2 月 17 日（火）14:00～15:30

### 2 場所

富山県庁 4 階大会議室

### 3 内容

#### (1) 議事

平成 21 年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について

#### (2) 報告

河川の環境基準の水域類型の指定の見直しの検討について

### 4 主な意見、質疑応答

#### (1) 議事：平成 21 年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について

[委員]

各測定項目の測定回数について、年 12 回や 4 回というのは分かるが、年 1 回とほどのような考え方に基づいて設定しているのか。時期や流量を考慮しているのか。

[事務局]

年 1 回の測定については、過去の検出状況を踏まえ、調査の効率化を図ったものである。データの推移を見ていくため、毎年同じ時期に測定している。

[委員]

地下水の調査地点について、資料 1 の計画本体に盛り込まれるものと、資料 2-2 の「継続監視調査」に盛り込まれるものと異なるが、整合はとれているのか。

[事務局]

資料 2-2 の継続監視調査地点は、今後の計画に定めるすべての調査地点を示している。一方、計画本体には 21 年度に実施する地点のみを記載している。

[委員]

測定計画本体には、地下水の汚染原因については盛り込まれていないのか。調査地点表に汚染原因を示し、分かりやすくしてはどうか。

[事務局]

基本的に VOC（揮発性有機化合物）による汚染については人為的原因、砒素やほう素については自然的原因（地質等）と整理している。汚染原因の分類が分かるように表を工夫する。

[委員]

継続監視調査で人為的原因による汚染地域は 3 地点で測定を実施することとなっているが、人為的原因である硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素による汚染地域が 2 地点で測定を実施することになっており、整合がとれていない。これは例外的なものか。

[事務局]

ご指摘のとおり、本来ならば 3 地点で調査すべき地域であるが、調査対象として 2 つの井戸しか確保できなかったため、2 地点での継続調査となっている。

[委員]

ストレーナの位置が複数ある井戸を調査対象とした場合、異なる帯水層の地下水が混合してしまい、浅い層、深い層のどの層の地下水を測定しているのかわからない。対象としては、可能な限り一つの帯水層からのみ揚水する井戸が望ましい。

汚染が発覚した場合の汚染源の追跡調査の実施も想定し、調査対象井戸選定の際には、ストレーナの位置を考慮されるよう検討願う。

また、項目ごとの調査頻度等の判断材料、説得材料として、毎年ではなくとも、測定データの経年変化などある程度の資料を提出いただいた方がよい。

[事務局]

概況調査の対象となる 300 地点の井戸は、飲用で、深さがその地域の平均的であると考えられる井戸を中心に選定している。諸元の分かる井戸の選定を今後検討していく。

なお、調査結果データについては参考資料 4 に水質汚濁の現況として示しているが、調査毎の経年変化など、もう少し詳細なデータも今後出していく。

[委員]

調査井戸の諸元については計画本体に記載する必要はないということによいか。

[委員]

記載するか、又は内部的に整理しておくことよい。今後の検討事項であるが、帯水層を変えて水質を把握していくことも重要と考える。

[委員]

とりまとめとしては、地下水の継続監視調査の調査地点の表に汚染原因を記載するなど微修正を行っていただくが、計画本体の基本的内容については、原案のとおり決議することといたしたい。

今後、事務局において修正を行っていただいたうえで、環境審議会へ報告することとする。

## (2) 報告事項について

[委員]

環境基準類型の見直しにあたって、将来予測はどの程度の期間を想定しているのか。

[事務局]

19 年度を起点とし、5 年後の 24 年度、10 年後の 29 年度を設定している。

将来の人口動向、下水道の整備状況等を勘案し、また、アンケート調査による工場・事業場からの負荷量の推移も踏まえて総合的に水質の予測を行うこととしている。